

まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.23

Well-being ～ 3学期終業式 ～

今年度の大東高校は、『Well-being ～ 生徒、教職員が希望をもって集う学校へ』というスローガンのもとで教育活動をしてきました。先生方にも『Well-being』について、いろいろと考えていただきましたし、生徒の皆さんも授業の中で考えていただいたこともありました。

『Well-being』とは、一言で言うならば「幸せ」なことです。感情的で一瞬の幸せ、いわゆる『Happiness』のようではなく、持続している「幸せ」であり、「一人一人の権利が守られ、身体的にも精神的にも、そして社会的にも満たされた良好な状態」を表現する言葉です。私たちが、自分にとっての「幸せ」を考えた時、当然のことながら一人一人の「幸せ」は多様なものであり異なります。学校のスローガンとして、生徒と先生が『Well-being』な状態であるということは、自分が「幸せ」であると感じると同時に、互いを尊重し、敬い、みんなが大切にされていると感じる状態を作り出すことが必要です。

ところで、なぜ学校で『Well-being』をスローガンとして目指すのか。それは、学校が『Well-being』な状態であれば、安心して何かに没頭できるからです。皆さんには高校生活の中で、自分がやりたいこと、学びたいことに没頭してほしいと思っていますし、先生方にも生徒のために頑張してほしいと思っています。しかし、体調がすぐれないとか、不安な気持ちで安心できなければ、そういうわけにはいきません。皆さんが部活動に没頭できている、学習に没頭できている、何か好きなこと、興味のあることに没頭できているならば『Well-being』な状態と言えます。ですから、『Well-being』は学校生活の目的ではなく、生徒も先生も充実した学校生活を送るための手段ということです。

私が『Well-being』の要素としてすごく大切だと考えるのは、「自分と自分の周りが、良くなっていくという期待感を持って行動する」ということです。自分で見つけた課題を突き詰めた結果、実は他の誰かの役に立っていた、ということは往々にしてあります。また、「社会問題を解決するぞ」というような難しいことではなく、自分自身や自分の近くにいる人たちを幸せにしたい、笑顔にしたいという思いをもって行動することを大切にしてほしいと思っています。先日の「ピンクシャツデー」は、まさに皆さんが『Well-being』の実現に学校全体で取り組んでくれたものですし、探究学習で「地域の方を笑顔にする」という学びもまさに『Well-being』の実践であるわけです。さらに『Well-being』は、「SDGs」の先にあるものとも理解できます。そして、「社会を自分たちの手でよりよく変える」ということで考えれば、先日の「たかまつななさん」による講演も私たちにそのような示唆を与えていただきましたし、織部祭での「ここいる HIROSHIMA」さんの講演も同様に社会全体の「幸せ」を考え実践することに繋げるものでした。

そう思って今年度一年間の学びを振り返って思い出し、一人一人が責任ある行動をとる、そして自ら周りに働きかけることを目指してほしいと思います。

